

入学式も終わり、キャンパスが活気を取り戻してきた4月12日～13日の両日、八王子市内の大学セミナーハウスを中心に、「新入留学生オリエンテーション」が開かれた。国際交流センターとパートナーズクラブの協力のもと、「日本人、留学生が互いの知り合いをつくる」という目的で集まった100人を超える学生が有意義なひとときを過ごした。

学生たちは、まず中大に集合、オリエンテーションは「ともに生活し、勉強することを学ぼう」という国際交流センター所長の佐藤清先生（経済学部教授）の言葉から始まった。各班ごとに分かれて自己紹介が始まった。「私、フィリピンが来ました」「nice to meet you」……日本語、

英語、中国語など多国籍の言葉が飛び交う。

言葉というものはすごいと思った。言語の違う人々の気持ちを伝えることが出来るのだから。私は、そんな

新入留学生のオリエンテーション

こちらが学びたい、積極性、



留学生の明るさも印象的だった

「言葉の力」に圧倒された。

また、留学生の明るさも印象的だった。知り合つてすぐでも、「ホーリー」とか、「ハッチャン」などと呼び合っている。こつした積極性に

も学ぶところが多かった。

中大で、すっかり打ち解けた一行は、この雰囲気そのままバスに乗せてセミナーハウスへ。留学生が切り出した。「日本はいい国ですね。

でも、経済面が大変。物価も高いし……。知り合いのなかには、深夜まで飲食店で働く人もいますよ」「私はいま、学部の履修方法に不安を感じています。同じ学部知り合いがないから」。異国での新生活と学園生活への期待と不安。そんな環境のなかで、いろいろ苦労もあるだろうが、彼らはいったつて前向きだ。

ゲームを交えた立食形式のパーティーで、途中、伝言ゲームをしたが、長い日本語のフレーズがかなり正確に伝わるのにも驚かされた。

ある留学生が私にいったことが忘れられない。「私はよく、日本語が上手」といわれます。けれど、間違つた使い方をしていたらズバズバ指摘してほしい。日本人の謙虚さは、いい面もあるけど不安もあります。また、大学の中にいて一番まずいのは、留学生同士、あるいは同じ国の人たちで固まってしまうことです。いろいろな国、そして日本人に多くの友だちが出きるように努力したいですね」というのだ。逆に、こちらがドキッとさせられるようなことをずばりといわれた感じだった。

（学生記者・初鹿 真一）